OITA MEDICAL CENTER

大分

58号

平成28年秋

大分市横田2丁目11番地45号
独立行政法人 国立病院機構 大分医療センター
編集発行 広報誌編集委員会
大分医療センターホームページアドレス
http://nho-oita.jp/

うすき竹宵（大分県臼杵市）／撮影：経営企画室長　田辺　俊介

基本理念

OITA MEDICAL CENTER

最新の医療技術・知識の修得に励み
病める人の立場に立ち
人の尊厳・権利を尊重し
「愛の心・手」で
最良の医療サービスを提供します

基本方針

- 365日24時間断らない診療を目指します
- 大分県地域医療支援病院として、地域へ貢献します
- 大分県がん診療連携協力病院として、がん診療の充実に努めます
- 垣根を越えた連携によるチーム医療の充実に努めます
- 地域に根ざした積極的な広報活動と情報発信に努めます
- 安定した医療を提供するため、健全経営を志向します

目次

永年勤続表彰 …… 2
南海トラフ巨大地震発生時の災害訓練を実施して …… 4
ＤＭＡＴ隊の視線で・・・ …… 5
健康フェアを開催しました …… 6
オープンシステム運営連絡協議会・合同臨床研究会開催について… 7
リレーフォーライフ大分 2016 に参加して …… 8
日本医療マネジメント学会第 15 回九州・山口連合大会に参加して… 9
ソーシャルワーカーデー IN 大分医療センター …… 10
第 10 回　豊水会開催！！ …… 11
「合同慰霊祭」を開催して …… 11
緩和ケア研修会を開催して …… 12
秋！オータム・ジャズコンサート …… 12
災害避難訓練 …… 13
ハロウィン・パレード …… 13
私とペット …… 14
編集後記 …… 14

永年勤続表彰

永年勤続30年表彰を受賞して

院長　室　豊吉

　このたび永年勤続30年表彰として、国立病院機構楠岡理事長からの表彰状と記念の銀杯を頂きました。この紙面をお借りしまして、改めてお礼申し上げます。

　思い起こせば、当院へ赴任したのは昭和60年８月１日（実際は３日引っ越し、５日の月曜日から勤務）、真夏の暑い日でした。前任地は佐賀県の小城町立病院（現在の小城市民病院）でしたが、当院（当時は国立大分病院）の消化器科（現在は消化器内科）充実を図るため、大分県出身（中津市）ということで、出身大学の医局を通し消化器科医長としての勤務になった次第です。当時の院長は花輪先生、以後松浦院長、原（改姓後は橋本）院長に仕え、平成17年４月より現職となり現在に至っています。実質勤務32年目となり、30年以上前からの当院の歴史を知る職員もごく少数かと思います。赴任当時、“「二豊荘」はどこですか？”と見舞客に尋ねられたこともありましたが、この意味わかる人いますか？土足禁止でスリッパに履き替える時代（靴の盗難頻発！）、現在の駐車場にテニスコートがあった時代、玄関前に広いロータリーがあり、官舎の前が緑豊かで、夏にはうるさいほどセミが鳴き、その中に池があった時代、現在の治験管理室奥に外部業者による食堂があり、ボヤ騒ぎがあったことなどが走馬灯のように思い出されます。その一方では、外来の増改築、病棟とリハビリ・給食棟の新築などに加え、病院機能評価受審、ICU 稼働、電子カルテ稼働、DPC 導入などで少しずつかつ確実に病院の充実が図られてきました。今後は１日も早い外来棟等建替改修整備工事の開始が待たれます。

　10年前に頂いた20年表彰での銀杯と併せて、時にはこの30年余りを思い出しながら、こよなく愛する日本酒を飲みたいと思います。

　繰り返しになりますが、永年勤続30年表彰、本当にありがとうございました。

永年勤続30年表彰を受賞して

管理課長　三宅修二

　この度は永年勤続30年の表彰を頂き誠にありがとうございます。

　高校を卒業し18才で国家公務員として初めて就職したのが、今は無き「国立療養所 筑後病院（福岡県）」でした。当時、隣に座っていた事務主任さんに「お前は今から42年間、働くことになるね」と言われたのをずっと覚えていて、あれから30年…。あと残り12年となりました。「光陰矢のごとし」で、あっという間ではありますが、色々な様々な人に助けられ支えられてここまで来られたのだと言う思いでいっぱいです。

　気持ちは当時の若いままだと思っていましたが、今年から事務の人材育成研修に携わる機会を頂き、「近頃の若い者は…」と思う自分がそこにいました。仕事においても、まだまだ学ぶことも多く、記憶力にも、目にも、肩にも、腰にも月日の経過を感じながら、あと12年をどのように過ごしていくかを考える良い機会にもなりました。31年目のスタートに、この初めての地“大分県・大分医療センター”で勤務していることが、また良い思い出になるように頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

勤続30年を振り返り

副看護部長　竹之内 須賀子

　私は最初の勤務先が国立循環器病センターで15年間勤務しました。その間、心臓移植マニュアル作成のため３ヶ月間のアメリカ研修等に参加する機会がありました。その頃、九州に戻ろうかと悩んでいた私は「この研修に行くとすぐには辞められんぞ」と脳裏をかすめましたが、新しい治療へのワクワク感や、病に向き合う患者や家族の支援に魅力を感じ取り組みに参加しました。その後も肺循環病棟では原発性肺高血圧の忘れられない患者と出会い、その看護を通じてチーム医療や看護の楽しさ、やりがいが実感でき「辞める」という文字が薄らいだように思います。そして看護師長として、九州に戻ってからは神経難病患者の在宅支援にスタッフと共に関わることができ、幸せな年月でした。時には心の中で１万回は「辞めてやる！」と叫ぶ日もありますが、今回、永年勤続30年表彰を期に思うことは、患者を含めた多くの人との出会いから刺激やチャンスを頂いたこと、そしてご支援くださった方々への心からの感謝です。今後は支援者として看護の楽しさが少しでも実感できるような環境作りに寄与できたらと考えています。本当にありがとうございました。

永年勤続30年表彰を受賞して

理学療法士長　梶 原 秀 明

この度栄えある永年勤続30年の表彰をいただき、大変光栄に思います。

昭和61年に当時の国立療養所西別府病院に入職し、早30年経ったことを考えると非常に感慨深いものがあります。入職当時の職場はスタッフ数も少なく、入職と同時に業務日報・月報の作成や、臨床実習生の指導、学会発表などを課せられ、いきなりの全力ダッシュで業務を開始した記憶があります。それらの経験が今の糧になっているものと思います。

この30年の間には、国立病院・療養所の移譲や統廃合、そしてその後の独立行政法人国立病院機構への移行がなされ、先行きの見えない不安な時期を経験しました。ただそういう情勢の中でも大過なく勤務を続けて来られましたのも、今まで支えていただいた周囲のスタッフの皆様のおかげであると大変感謝しております。

定年延長の可能性がある中ですので、次は永年勤続40年を目標に、そして機構で勤務をさせていただいた証（実績）を残せるよう頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

永年勤続30年表彰を受賞して

副診療放射線技師長　廣 瀬　親

この度永年勤続表彰を頂き有難うございました。30年経ったのだ、と他人事のような気がしています。仕事上やらなきゃいけないこと、やるべきこと、またやりたいことが変化し年取ったかなと思い始めていましたが、そんなに経つのですね。時があっという間に駆け抜けた感があります。これが年取った感じでしょうね。卒後、就職した当初を思い返すと本当にいろんな方にご迷惑をお掛けしました。数々の失敗を思い出すと未だに赤面しそうです。その節はフォローアップ有難うございました、年数が経っても感謝の気持ちは忘れません。これから仕事を続ける上で、その気持ちを忘れずに持ちたいと思っておりますし、限られた時間を大切にしていこうと思っております。

また、家族の協力も心の支えとなっております、面と向かっては言えないけど、本当に有難うございます。

これからも皆様、よろしくお願いします。

永年勤続20年表彰を受賞して

１階病棟看護師　川 野 敏 恵

このたびは永年勤続表彰を頂戴し、感謝申し上げます。

20年と言えば、生まれた赤ちゃんが成人になるまでの長い期間ですが、あっという間の20年で自分なりに頑張ってきたかと思います。命に関わる仕事ですので心身共に辛いこともたくさんありましたが、看護師長さん、副看護師長さんをはじめ、スタッフの皆さんや患者さんの笑顔や言葉に支えられ、これまで続けてこれたと感謝の気持ちで一杯です。

これからもこの感謝の気持ちを忘れずに体に気をつけながら微力ですが頑張りたいと思います。

永年勤続20年表彰を受けて

３階病棟看護師　島 谷 祐 子

今回勤続20年表彰を頂きありがとうございました。

平成６年に就職し、平成９年に本採用になり、最初は手術室配属で勤められるか不安でいっぱいでしたが、諸先生方、スタッフの方のご指導のお陰で20年働くことが出来ました。本当に感謝の思いでいっぱいです。これからも少しでも皆さまのお役に立てるよう、そしてご迷惑をかけないようにチームワーク第一で、誠意をもって働いていこうと思います。

これからもご指導よろしくお願い申し上げます。

南海トラフ巨大地震発生時の災害訓練を実施して

副看護部長
竹之内 須賀子

当院では、年２回の防災訓練を実施しています。昨年度は被災者受入訓練を２回行いましたが今回は１年半ぶりに南海トラフ巨大地震発生に伴う津波からの院内避難訓練を行うことになりました。１年半ぶりの避難訓練であり、企画準備をするにあたり最近の津波被害想定も変化しているのではないかと準備委員会では意見があり、色々と調べてみました。地形にもよりますが大分市への津波の到達時間も南海トラフ地震発生から47分！そして津波の高さは９ｍになっていました。当院は海抜３ｍではありますが、液状化もおこるだろうし、大野川からの津波の流入も考えると更に早い到達も考えられました。前回の資料では１時間30分で避難完了となっており「どうしたもんじゃろの～」と考えましたが、時間は前回通りとしました。理由は、前回の避難訓練では詳細なアクション行動が記載されており、各部署でその指示通り動いていただいたのですが、予定行動の時間よりも先に先々の行動が行われ部署によっては早い時間に終了しているケースもあったという反省のためです。できるだけリアリティある訓練にするために災害訓練の全体像は少し内容を省略し、災害対策本部の指示で系統立て行動し、物品や応援者が少ない状況があれば各部署が自律性をもって本部に依頼をするといった内容にしていこうと準備委員会で決まりました。そこで今回の訓練目標は

①初動対応がアクションカードに添ってできる

②各部署の役割に応じた準備ができる（災害本部の設置段取り）

③模擬患者が安全に避難できる

として、災害訓練当日となりました。

まず、①②についてですが、今回は、アクションカードの見直しに際して院内放送の内容も変更をしました。大きな変更は患者さんに向けての放送と職員に対する業務連絡を区別しました。内容は解りやすくなったと思いますが訓練時間と実働の行動とのタイムラグもあり次回は避難完了までの時間短縮も有りだなと思いました。そしてアクションカードは初動の行動は細かく記載されていますが、実際の避難搬送については依頼された部署でリーダーの指示を受ける形になります。そこからが避難の本番ですが、「担架が来ずに搬送が遅れた」「まず、人手不足！」「薬の搬送は時間がない場合に備え重要品目など優先順位をつけたほうがよい。または、上層階の医薬品備蓄の検討」等などの意見がありました。訓練では全館放送で担架不足や搬送人員不足の指示もありましたが、気合いの搬送でどうにか避難ができた状態での終了となり、搬送斑となるべく職員や物品が不足する中でいかに連絡・連携をとり効果的な搬送を行うかは大きな課題だと思いました。

③については、担架で模擬患者移送中の安全確保は体幹抑制帯の利用等の工夫もありましたが、模擬患者役の学生のアンケートからは「丁寧な対応で安心できた」との意見もありました。また、「担架で階段を上がる際にずり落ちそうで少し怖かったです」、運ぶ際に「今から動かしますね」「今から降ろしますね」と一声かけてくれると患者も安心できると感じた」などの意見もあり患者の立場に立っての対応にも更なる課題を頂きました。

まだまだ色々な課題や問題もありましたが、職員の皆様のご協力でどうにか無事に（？）終了できたことに感謝しております。

最後に、災害訓練を企画実施して思うことは、災害訓練を行うことで多くの課題発見や、よい提案もあり検討の場になりますが、なにより体験することで、いざ有事の際に自分の役割を再認識し何をすべきか考え行動できるようになると思います。平日の忙しい中ではありますが、準備段階より多数のご参加を今後も宜しくお願いいたします。

DMAT隊の視線で・・・

日本DMAT隊ロジ
佐　藤　　香

平成28年９月９日に防災訓練が行われました。今回は南海トラフ地震が発生、震度６弱の地震、90分後に最大約６ｍの津波が当院に到達するという想定でした。当院は全員３階以上に避難することになっており、外来患者、１病棟、２病棟、ICU、透析室、手術室の患者を３階以上に搬送し、スタッフも避難しなければなりませんでした。歩けない患者はエレベーターが使えない為狭い階段を担架を使い３階まで上げていきます。一人の患者を４～６人で搬送していき、患者搬送が終了後には、医療資機材と食糧の運搬です。患者・スタッフをあわせて400名以上が１～２日程度過ごせるだけのものが必要です。特に輸液は重く人手が必要になってきます。訓練ということもあり搬送担当の人数が少なく、搬送班の方はかなり疲れたと思います。

また、各病棟では、被害状況やスタッフの状況を確認し、災害対策本部へ報告など行っていかなければなりません。３階より下の階層では搬出の為の準備、３階以上の病棟では、下の階層の患者が上がってくる為の受け入れ準備などいろいろな事が同時進行でやってきました。

対策本部では、情報の伝達発信といったところが混乱していたようです。担架が足りない、搬送スタッフが足りないなど本部に様々な情報が上がってきましたが、次々に上がってくる情報に煩労され、なかなか要望に対する返答ができませんでした。時間が経つにつれて患者数の情報が整理されてきましたが、その情報を搬送班に活かせず、情報発信のあり方を再考していく必要性を感じました。

今回の訓練では、津波が到達する想定時間内に患者搬送や医療資機材・食糧など３階以上に運ぶことができましたが、実際は搬送患者はかなりの人数に増えると思います。院外から避難してくる人がいる事は容易に考えられます。現場がパニックになることは必至です。まずは私達が冷静に判断・行動することが大切であり、そのためには訓練でひとつひとつのことを確認しながら行っていき、繰り返すことでパニックを最小限に抑えることができるのではないでしょうか？

毎日日本のどこかで地震がおこっています。いつ自分の身に降りかかってくるかわかりません。自分を守るため、大切な人を守るために訓練はかかせません。訓練は他人事ではありません。繰り返し行ってこそ有事の際スムーズに対応できると思います。その為には一人でも多くの方に防災訓練に参加していただき、大変さ大切さを知っていただくことが大事だと思います。

健康フェアを開催しました

９月24日（土）に大分医療センター健康フェアをトキハインダストリー明野アクロスで開催しました。運悪く近くの小中学校での運動会と重なり、来場者数の心配がありましたが、天候にも恵まれ、238名の方にお越し頂きました。結果的には非常に健康意識が高い60歳以上の方が全体の70％近くを占め、大盛況だったのではないでしょうか。やはり特に目玉コーナーの血糖測定、肺年齢測定、骨健康測定、重心バランス測定は大人気だったようです。「気軽に参加できて大変良かった」とか「是非うちの近くでも開催して欲しい」など、ありがたいお言葉もたくさん頂きました。開催場所が病院から少し離れていることもあり当院をご存じない方も多く、良い宣伝にもなったと思います。また、今回の反省点も振り返りながら次回（来年度）のフェアも盛り上げていきたいと思います。今回場所を提供頂きましたトキハの方をはじめ、たくさんの職員の方々に準備段階からご協力頂き本当にありがとうございました。

オープンシステム運営連絡協議会・合同臨床研究会開催について

経営企画室長
（地域医療連携係長）
田　辺　俊　介

平成28年９月29日（木）オープンシステム運営連絡協議会並びに当院と地域の医師会による合同臨床研究会をトキハ会館にて開催いたしました。

まず、運営連絡協議会では、当院の室院長の挨拶に始まり、澤口大分東医師会会長の挨拶、新委員の紹介、院外委員の方々から地域連携に関する要望や意見、地域医療従事者を対象とした研修会などの意見をいただきました。

引き続き行われた合同臨床研究会には、大分東医師会や大分郡市医師会などのオープンシステム登録医32名、当院から64名（医師21名、看護師20名、コメディカル12名、事務職等10名）に加え、地域の救急連携に向け大分市消防局、臼杵消防本部、津久見消防本部の救急隊員（14名）の方々、総勢110名の参加数となりました。研究会は新関第二消化器内科部長（現消化器内科部長）による「当院における大腸腫瘍に対する治療ＥＳＤ症例」の講演と、有川第二循環器内科部長による「私がＰＣＩ後患者フォロー時に気をつけている事」について、最後に、岡田婦人科部長による「婦人科内視鏡手術」の講演をしていただきました。３名の先生方の講演は私たちが普段聞くことのできない貴重な講演でした。

研究会終了後の懇親会では、室院長の挨拶、澤口大分東医師会長の乾杯で懇親会が始まり、会場内では、日頃、病診連携でお世話になっている地域の医師会の先生方や救急隊員の方々と会話が弾み有意義な時間を過ごしたと思います。また、当院の新たな試みで画像地域連携システム「あいしんネット」の導入の紹介を中村放射線科部長よりプレゼンを行い、地域医療の連携をさらに強化するアピールも行いました。

最後になりましたが、ご講演いただいた新関消化器内科部長、有川第二循環器内科部長、岡田婦人科部長の３名の先生方に感謝するとともに、お忙しい中参加していただきました医師会の先生方及び救急隊の方々、そして職員の皆様にお礼申し上げます。

新関消化器内科部長による講演

有川第二循環器内科部長による講演

岡田婦人科部長による講演

リレーフォーライフ大分2016に参加して

緩和ケアチーム
廣　田　紘　子

10月8日（土）から10月9日（日）にかけて大分スポーツ公園大芝生広場にて、リレーフォーライフ大分2016が開催されました。

リレーフォーライフとはがんと闘う方々の勇気を称え、がん患者・家族・友人・支援者と共に交代で夜通し歩き続けることで、一丸となってがんと闘う連帯感を育み、がんで悩むことのない社会の実現のために募金活動を行うチャリティーイベントです。大分県では、2008年より開催され毎年延べ5000人の方が参加しています。

当院は、今年で8回目の参加となりますが、2013年より院内全体で取り組む病院行事の一つとなっており、毎年150名を超える職員や患者さん・ご家族に参加いただいております。

当日は、各病棟、各部署より延べ150名の職員の方、患者さん・ご家族7名の方に参加・協力していただき、チーム一丸となってタスキをつなぎました。開催前より、阿蘇山噴火による降灰や雨の予報に不安が募りましたが、晴天のもとがん体験者の方とそのご家族によるウォークを皮切りに、笑顔のスタートとなりました。

会場で催されているイベントを楽しみながらのリレーも、夕方～深夜にかけて雨風が強まり過酷さを増していきましたが、みなさん歩みを止めることなく続々と笑顔で歩いてくださいました。懸命に歩かれる姿に胸が熱くなり、これまでにないチームの力を感じました。

また、大会に参加できない患者さん・ご家族は、闘病への思い、感謝、故人を偲ぶ思いなどメッセージとしてルミナリエに託してくださいました。夕方になるとルミナリエの灯りがコースに連なり、雨の中朝方まで、静かに優しくコースを照らし続け、私たちの疲れを癒し背中を押してくれました。

朝方には雨もあがりみなさんのおかげで無事に、笑顔でゴールすることができました。

それから、リレーウォークをする傍らで、チームテント企画として第3回がん川柳作品展を開催しました。全国から集まった70作品の展示と第2回がん川柳作品集の配布を行いました。夕方から天候が悪化したため、残念ながらすべての作品を展示することはできませんでしたが、参加者の方は足を止めてご覧くださり、作品集も70部配布することができました。がん川柳を通じた活動は、少しずつですが全国の患者さん・ご家族の助けとなり、医療者も作品に触れることで何かを得る機会になっていると実感しています。

今回あいにくの天候でしたが、大会に参加する人たちの列は一度も途切れることはなかったそうです。参加していただいた患者さん・ご家族からは、これまでの闘病を振り返りながら皆さんに勇気づけられました、またここに来ることが目標ですと力強い言葉と笑顔を私たちに届けてくださいました。この活動を、もっと多くの患者さんや支援者に知ってもらい、気軽に集える会になるよう活動を継続していきたいと思っています。

最後になりましたが、ご参加・ご協力いただいた患者さん・ご家族・全職員の方々、本当にありがとうございました。

日本医療マネジメント学会
第15回九州・山口連合大会に参加して

教育担当看護師長　**山 本 真由美**

９月16日、17日に佐賀県で開催された学会に参加させて頂きました。昨年度取り組んだ看護師長研究会での研究を纏めて発表したのですが、久々の口演発表、時間に追われ早口になる始末。それでも多くの方に聴きに来て頂き、感謝致します。少しは大分医療センターをアピールできたのではないかと思います。

ランチョンセミナーでは佐賀大学の尾山先生による「高血圧における血圧変動の意義」というテーマで講演があり、研究成果に基づいた血圧コントロールの意義について話を聞くことが出来ました。

２日目からの参加だったので短い時間でしたが、他の演者の発表を聞くこともでき、有意義な学会参加でした。

３階病棟　看護師長　**寺 川 孝 枝**

平成27年度の看護部医療安全委員会では、報告時のコミュニケーションエラーを防止する取り組みとして、ＳＢＡＲを活用した具体的な事例集を作成し、各現場で報告が行いやすくなったという効果を上げてきました。今回その成果を医療マネジメント学会で発表させていただきました。緊急時の正確な状況と医師へして欲しいことが伝わる良い取り組みであると意見をいただきました。発表会場は各施設からの医療安全の取り組みについて発表が行われており、医療安全の観点を持った取り組みについて自分自身も学ばせていただきました。

４階病棟　看護師　**高 木 温 美**

平成28年９月16･17日に佐賀県で行われた日本医療マネジメント学会（第15回九州・山口連合大会）で、看護研究の取り組みを発表させていただきました。発表は２日目であったため、１日目はいくつかの演題を聴講し、夜は佐賀牛を堪能して、当日に臨みました。思った以上の広い会場にとても緊張感が高まりましたが、無事に終えることができほっとしています。発表までの準備がとても大変でしたが、何度もご指導していただいた看護部長、師長各位、協力していただいた病棟スタッフに感謝しています。ありがとうございました。

ソーシャルワーカーデー IN 大分医療センター

医療社会事業専門員
椎　原　優　子

ソーシャルワーカーってどんな仕事？特に病院で働くソーシャルワーカーについて講義、病院見学、模擬面接体験を通して知ってもらおうという企画で、今回で４回目となります。超高齢社会の中、福祉系大学の進学希望者は減少傾向にあります。高校生に将来の仕事について夢を持ってもらおう、今後の進学の参考にしてほしいとの思いから、毎年学校が夏休みの間にソーシャルワーカーデーＩＮ大分医療センターと銘うって開催しているイベントです。今年は大分市内の進学校、10名の医療系に興味のある学生さんが参加して下さいました。

当院ソーシャルワーカー岡江よりソーシャルワーカーの仕事について講義がありました。その後病院の中を案内しながら、各職場からソーシャルワーカーとの連携について説明がありました。日頃なかなか接することのできない多専門職に学生さんたちも興味津々でした。最後に模擬面接体験をしました。ソーシャルワーカーの主な仕事の一つである、患者さんとの面接です。ソーシャルワーカーが患者役となり、学生さんがソーシャルワーカー役となり模擬面接をしましたが、患者役ソーシャルワーカーに一生懸命言葉をかける学生さんの姿が印象的でした。

参加後のアンケートより「普段見ることができないことを見ることができてよかった」「面接は思ったより難しくて貴重な体験ができた」「人とのかかわりが深い魅力的な仕事だと感じた」等の回答があり、参加された学生さんにとって有意義な時間となりました。

参加の記念品として、当院よりソーシャルワーカーがモデルになった漫画本「いとしのタンバリン」を贈呈し、学生さんにより理解を深めてもらうことができたのではないかと思います。学生さんの熱心な姿に、私たちもとても良い刺激を受け、日頃の業務にますます精進しなければならないなと再確認することができました。

第10回　豊水会開催！！

管理課長
三　宅　修　二

去る10月1日（土）に10回目となる豊水会を開催いたしました。各機構病院のＯＢ会は夕刻よりの開催が多い中、今回は午後13：30からの開催といたしました。そのお陰かどうか分かりませんが年々参加者も減少しており開催も危ぶまれる状況でしたが、今回はOB20名、現役39名の盛会となりました。そして２年に一度の再会に話も尽きず、あっという間に２時間の宴は終了しました。しかしながら、大分医療センターは今、変革の時期を迎えております。それは新しい外来管理棟の建て替えです。その工事のおおよその目処がつくのが３年後のため、次回の豊水会は３年後の平成31年度に開催することが今回の幹事会・総会で決定いたしました。皆様とはちょっと長めの暫しの別れとなりますが、次回はきっと新しい大分医療センターをお披露目することができるでしょう。それまで期待してお待ち頂ければと思います。最後になりますが、今回お忙しい中、また遠方よりたくさんの方々にお越し頂き、誠にありがとうございました。またお会いできる日を職員一同楽しみにしております。

「合同慰霊祭」を開催して

経営企画室長
田　辺　俊　介

平成28年10月31日に大分医療センター合同慰霊祭が厳かに執り行われました。

この合同慰霊祭は、当院で治療の甲斐無く亡くなられた故人のご冥福を祈り、ご遺族の深い悲しみを少しでも癒していただくための式であります。今回は、平成27年10月1日から28年8月31日の間に亡くなられた246名のご遺族70名に参列していただきました。

式は、出席者全員による黙祷から始まり、続いて室院長が追悼の辞を述べられました。その後、幹部職員、ご遺族、職員と祭壇に献花を捧げ、最後にご遺族の代表の方よりご挨拶を賜り、合同慰霊祭は閉式となりました。

最後になりましたが、ご多忙の中、当院の合同慰霊祭にご参列いただいたご遺族の皆様に、厚く御礼申し上げます。

緩和ケア研修会を開催して

緩和ケアチーム
廣　田　紘　子

７月 30 日（土）～ 31 日（日）２日間にわたり「緩和ケア研修会」が開催されました。この研修会は厚生労働省が平成 19 年にがん対策推進基本計画として「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得」することにより、「がん治療の初期段階から緩和ケアが提供されること」を目的として全国のがん拠点病院を中心に毎年行われているものです。当院でも大分県がん診療連携協力病院として平成 22 年より毎年行っています。

今年は医師 17 名、看護師３名、薬剤師２名の方が研修を受講されました。昨年より改訂された新カリキュラムでの開催となりました。

２日間の研修会は講義・ワークショップ・ロールプレイで構成され、まず講義では緩和ケア概論にはじまり疼痛･呼吸困難感など症状コントロールや精神症状、在宅医療に加えて、就労支援を組み込み、幅広く最新の知識が学べるようになっています。つぎに、グループワークでは多職種で事例検討を行い、患者さん・ご家族を全人的にアセスメントし、必要な治療・ケアを導き出すチーム医療を学びます。さらに、ロールプレイでは医師役、患者役、患者・家族役になってがんの告知を行うなど、臨床でのコミュニケーション技術を考える機会にもなります。研修後のアンケートでは「長時間でしたが、各分野とも興味を持って受講することができました」「とても充実した研修でした」「ロールプレイをする事は患者の思考が何となくではあるが、分かるので有意義だったと思う」「コミュニケーションについては日頃の診療でもっと熟慮しないといけないと反省した」などたくさんのお声をいただきました。研修の改善点に関する貴重なご意見もいただけましたので、より充実した研修会となるよう、来年に向けて検討していきます。研修参加者の皆さま２日間大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

秋！オータム･ジャズコンサート

医療サービス向上推進委員会

秋の昼下がり、大分医療センターにジャズの音色が響きました。

秋のオータムコンサートの開催です。

しかも今回は室院長先生のギターソロ演奏との２部構成での開催となり、盛りだくさんなコンサートとなりました。

はじめに第１部は院長先生の1956年イタリア映画『鉄道員』のテーマ曲に始まり、『ロンドンデリーの歌』、『ラリアーネ祭』と懐かしい曲を奏でて頂き、最後のアンコールは皆さんお馴染みの『禁じられた遊び』で和ませて頂きました。

第２部は昨年も出演頂きました、ピアノ、サックス、コントラバスの三重奏、カシュカシュの皆さんです。結成は１年あまりとのことでしたが、個人ではそれぞれにいろいろな場所で活躍されている皆さんなので、シャンソン曲の定番『枯葉』から童謡の『もみじ』まで、全８曲あまりを独特のアレンジをしたジャズサウンドと迫力ある音質で魅了して頂きました。

患者さん達もきっとここが病院であることを忘れるくらいの“ひととき”だったのではないでしょうか。

院長先生、カシュカシュの皆さん、お忙しい中、本当にありがとうございました。

災害避難訓練

ひかり保育園

ひかり保育園では、「育つ力を育てる」という保育理念のもと「丈夫な体と豊かな心・思いやりのある子・自分で考え行動できる子」の３つを保育目標として日々の保育に取り組んでいます。また月に一度の避難訓練では、地震、火災、不審者、津波などを想定した訓練を行っています。10月19日には、子ども達が園庭で遊んでいる時に大きな地震が起き、20分で到達する津波が発生したという想定で病棟３階に避難する訓練を実施しました。地震の発生を聞いた子ども達は、園庭中央に低い姿勢で集まり津波が来ることを伝えても慌てることなく保育士の指示に従って病棟を目指しました。みんな真剣な表情で階段を駆け上がり、乳児はしっかりと保育士に抱きかかえられて全員が無事に３階へ。かかった時間は８分でした。今回初めて病棟に避難させていただき、経路や階段を上る大変さ、時間の確認ができ貴重な経験をすることができました。これからも子ども達の安全を第一に考え、判断を間違う事のないよう「もしも」に備えたいと思います。勤務中にも関わらずご協力くださいました病院の皆さま、有難うございました。

ハロウィン・パレード

ひかり保育園

10 月 27 日木曜日、恒例のハロウィン・パレードを病院ホールにて行いました。ディズニーキャラクターに仮装した子ども達は、病院で働くパパやママにその姿を見てもらいたくてわくわく！ドキドキ！そしてたくさんの拍手に迎えられて、ハロウィンは始まりました。自己紹介をして、一生懸命練習した「おかしなハロウィン」のダンスを披露した後は、『トリックｏｒトリート』と唱えながらお菓子をもらいに。そこには院長先生のお姿もあり、子ども達一人一人に優しく優しくお菓子を渡してくださいました。最後はみんなで記念写真、帰り際子ども達の「お仕事頑張ってねー」の声に病院の皆さんが笑顔で手を振り返してくださり、子ども達にとって楽しくて嬉しいハロウィンの一日となりました。今年もこの企画にご協力くださった病院の皆さまに、職員一同感謝申し上げます。

私とペット

地域医療連携室　石 川 奈保美

平成24年に可愛い家族が千葉県からやって来ました。ミニチュアダックスフンドの「ショコラちゃん」について紹介します。ロングヘアタイプのダックスですが写真で解るように、耳以外は1年中短髪です。これには訳があって・・・。ショコラには「てんかん」の持病があるんです。発症は生後10ヵ月の時でした。最初に発作が起こった時は私も子供たちも本当にびっくり！ガタガタとケージが揺れる音がして見てみると、ショコラが口から泡を吹いて全身をひきつらせていました。いきなりの事で何が何だかわからずおろおろ。診断はてんかん。今の先生は東洋医学に詳しい先生で、その業界では「腎けい」と言って、両親のどちらかが高齢だと生まれつき腰から下が弱い犬が生まれやすいのだそうです。熱が体にこもると発作が誘発されやすいので、先生のアドバイスで耳以外は定期的にバリカンで散髪しています。今は、針灸治療と毎日の内服で過ごしています。最初はビビっていた子供たちも今は慣れたもので、首が前後にピクピクし始めると黄色信号！！素早くケージに入れて扇風機で体を冷やしてあげています。薬も子供の担当で、水で溶かしてスポイドで上手に内服させています。月に1～2回の発作は出ますが、元気いっぱい可愛いしぐさで家族を和ませてくれる石川家のアイドルです。

ミニチュア
ダックスフンド
「ショコラちゃん」

大分医療センターのロゴマークについて

全体のコンセプト

Oita National Hospital（旧国立大分病院）の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。

これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

「緑と赤」…昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
「青」……大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
「黒」……地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。

編集後記

徐々に朝晩の冷え込みを感じるようになってきました。秋はイベントごとが多くかわいい子供たちの声があちらこちらから聞こえてきては、運動会や文化祭で頑張る姿を目にすることができ、気持ちがほっこりします。ほっこりエピソードとは裏腹に、最近ストレス社会という言葉をよく耳にし、当院でもストレスチェックが実施されました。目的はメンタルヘルス不調を未然に防止するためだと思いますが、チェックしてみて自分の傾向や自分の支えとなっているものに気付くきっかけとなり、意外にも気付いていなかった自分自身の新たな発見に驚きでした。心にゆとりがないと前述したかわいい声も耳に入ってきません。自己の思考の癖を知りコントロールすることで、ストレスと上手く付き合っていきたいものです。　編集委員一同

編集委員

委員長
穴井　秀明（副院長）

委　員
姉川　俊也（事務部長）
中村　雄介（臨床研究部長）
竹之内須賀子（副看護部長）
山本真由美（教育担当師長）
高瀬　由香（2階病棟副看護師長）
三宅　修二（管理課長）
田辺　俊介（経営企画室長）
内田　信也（業務班長）
生野　充章（専門職）
米丸　淳一（給与係長）
岡江　晃児（医療社会事業専門職）